

～今年は特にカメムシ類が多く発生しています～
斑点米発生防止のため、基本防除は適期に確実に行いましょう！

1 コシヒカリの水管理



【YouTube】
15 登熟期間
の水管理

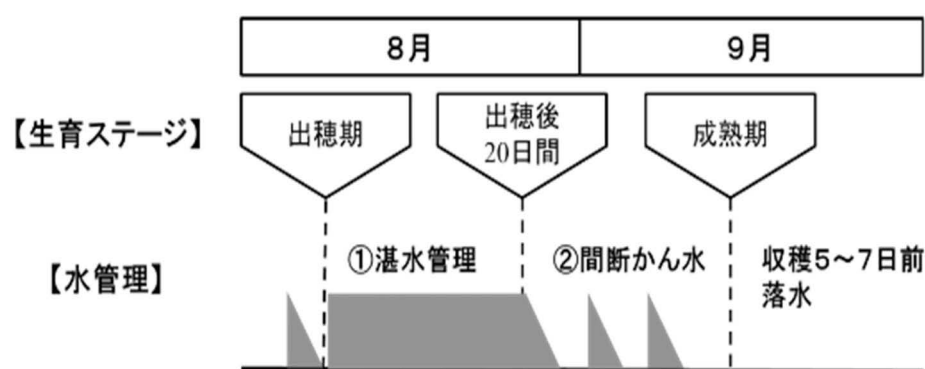
○出穂後20日間は湛水状態を保ちましょう。

「湛水管理」の効果

- ①稲の葉から水分が蒸散されると気化熱で圃場内の温度が低下し白未熟粒や胴割粒の発生が少なくなる。
- ②登熟が良好に進み、収量が向上する

○出穂後20日以降は刈取5～7日前まで間断かん水を行い、適正な土壌水分を保ち稲体活力を維持しましょう。

<水管理のイメージ>



①「湛水管理」

- ・3cm程度に湛水し、田面が露出する前に再度入水する。
- ・水持ちのよい圃場では、適宜、水の入れ替えを行う。

②「間断かん水」

- ・「3cm程度入水→自然落水→(足跡の水がなくなったら)入水」を繰り返す
- ・フェーンが予想される場合は、あらかじめ湛水する。

※2週間気温予報などをご活用ください。

(気象庁 HP) <https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/?fuk=55>

○下流域まで十分に水が行き渡るよう、かけ流しを止め、地域で計画的な用水の利用に努めましょう。

2 てんたかくの刈取り



【YouTube】
16 収穫作業

8月も高温で経過することが見込まれるため、刈遅れとならないように注意し、胴割米の発生を防ぎましょう。

【てんたかく刈取適期の目安】(粳黄化率 85～90%)

出穂期	刈取り適期※1
7月11日	8月12～13日

※1 平年並の平均気温+2℃で推移した場合



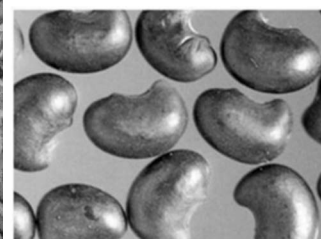
表示の日を参考に、
刈遅れないように
計画的に収穫しましょう！

○圃場の状態により刈取適期は異なります。各地区に設置される刈取適期表示札を参考に、必ず粳の黄化状況を確認して刈取時期を決めましょう。

○立毛胴割の発生を防ぐため、収穫の5～7日前までは「間断かん水」で土壌水分を維持し、落水を早めないようにしましょう。

【刈取作業の注意点】

- 刈取りが遅れないようにコンバインの掃除を早めに終えておきましょう。
- 小石やガラス片などの異物が混入しないようにして下さい。
- クサネム等の雑草の種子は選別が困難なので、収穫前にあらかじめ抜いておきましょう。



クサネム(左)とクサネムの種子(右)

3 乾燥作業

【YouTube】
17 乾燥作業

- (1) 張り込み時のポイント
- 高水分粳を長時間放置すると、ヤケ米になるので、収穫後 4 時間以内に乾燥機に入れて送風しましょう
 - 張り込み量が少ないと、相対的に循環速度が速くなり、高温乾燥により品質が低下するので、各乾燥機の基準に従って、張り込み量に応じた送風温度に設定しましょう。
- (2) 乾燥作業のポイント
- 胴割米発生防止のため、急激な乾燥は避けましょう。
 - 収穫粳の水分を確認し、下表を参考に、粳水分に応じた乾燥作業を行いましょう。

表 収穫時の粳水分に応じた乾燥作業のポイント

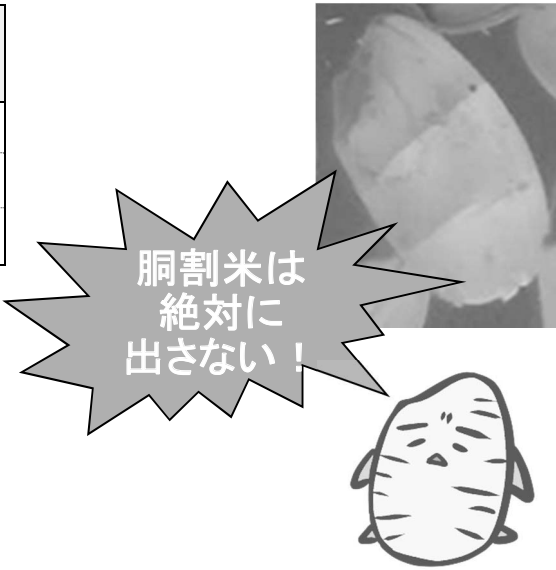
収穫粳の水分	乾燥作業のポイント
25%以上	・ 2 ～ 3 時間の通風乾燥を行い、送風温度を機種基準より下げて乾燥しましょう。 ・ 粳水分 1 7 %程度で一度乾燥を止め、半日程度休止した後に再乾燥（2 段階）しましょう。
20%未満	・ 圃場内での胴割粒の発生が懸念されるため、送風温度を下げゆっくり乾燥しましょう。

- 粳水分が 17%以下になったら、手動水分計でこまめに水分をチェックし、過乾燥を防ぎましょう。
- 下表を参考に、青米の混入状況に応じた乾燥機停止時の玄米水分で、乾燥機を停止してください。

表 乾燥機停止水分の目安

玄米 100 粒中の 青米粒数	乾燥機停止時の 玄米水分	乾燥機停止後の 水分変化
5 粒以下	1 5 . 0 ～ 1 5 . 5 %	乾く（－0. 5%）
6 ～10 粒	1 4 . 5 ～ 1 5 . 0 %	ほとんど変わらない
11 粒以上	1 4 . 0 ～ 1 4 . 5 %	もどる（+0. 5%）

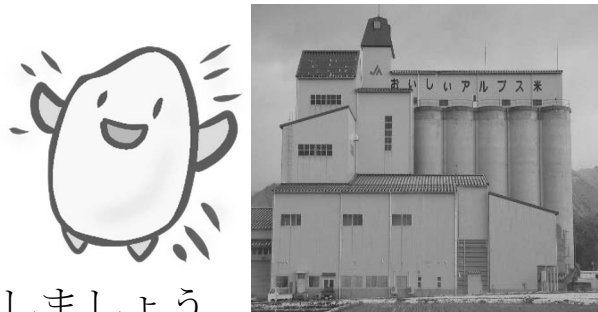
- 玄米水分は 14. 5～15. 0%に仕上げましょう。



4 調製作業

【YouTube】
18 調製作業

- (1) 粳摺作業のポイント
- ゴムロールが減っている場合や硬化している場合は交換しましょう。
 - 肌ずれ米発生の防止のため、粳の温度を常温まで冷まし、玄米水分を確かめてから行いましょう。
 - 脱ぶ率が 8 0 ～ 8 5 %になるようゴムロールの間隔を調整しましょう。
 - 粳が製品に混入しないように、選別機の調整をしましょう。
- (2) 選別計量のポイント
- 検定済のハカリで計量しましょう。自動計量器を使用する場合は、最初の計量の米は検定済のハカリで量目が正確か確認しましょう。
 - 皆掛重量は 3 0 . 5 k g に正しくセットしましょう。
 - フルイ目は 1 . 9 ミリを使用し、適正な流量で屑米などは確実に除去しましょう。



※石、金属片、異物等の混入を防止しましょう。

◎高品質、低コスト生産に、カントリーエレベーターやライスセンターを活用しましょう。
各種利用助成制度(平日利用助成、カントリー持込助成、高温耐性品種利用助成、大口利用助成)があります。

生産記録簿兼 GAP チェックシートは、出荷時に農協へ必ず提出して下さい。

【コンバイン作業の注意点】
秋の農繁期には、コンバインによる事故が毎年多く発生します。
余裕をもった作業計画を立てるとともに、事故防止対策を徹底しましょう。
○コンバイン作業時は、衣類が巻き込まれないよう、袖口や裾が締まった服装を着用しましょう。
○詰まったワラを取り除くときは、必ずエンジンを切りましょう。
○後進時には、死角が多いので、補助者による誘導や確認を行いましょう。

**8 月は厳しい暑さが続くことで、熱中症リスクが高まります。
対応フローを掲示する等、熱中症対策をして作業を行いましょう！**